

卒業生の進路状況について

今号では、卒業生の進路状況について紹介します。直近の進路状況は以下のとおりです。

【卒業生の進路状況（平成29年度～令和元年度）】

年度	部門	進路先						入所			その他	合計
		一般 企業	就労継続 支援A型	就労継続 支援B型	就労移行 支援	生活訓練	生活介護	B型	生活 訓練	生活 介護		
令和元	A	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	3
	B	5	6	5	1	7	9	1	5	0	2	35
H30	A	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	7
	B	9	2	5	0	4	4	0	3	2	0	24
H29	A	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3
	B	6	3	3	1	4	15	0	3	0	1	33

※合計数は、入所者数を除いた数字です。

【卒業生の進路先事業所（平成29年度～令和元年度）】

進路先	具体的な事業所
一般就労	株式会社ベネッセビジネスメイト 東岡山給食センター 山陽マルナカ 前田物流 ヤマト運輸株式会社 東洋紡カンキョーテクノ など
就労継続支援 A型	トライピース ステップアップ原尾島 ステップアップ倉田 てまり みずほ サニー フルーツバスケット など
就労継続支援 B型	津高生活交流センター かがやき作業所 きぼうの会 ちどり ゆいまーる VIVIANA ひゅうまん わくわくワーク など
就労移行支援	ハートスイッチ岡山南校 ハートスイッチ東岡山校
生活訓練	カレッジ旭川荘 エール赤磐 ※吉備の里なでしこ ※P.P.P.BB チャレンジャー!
生活介護	笑みの集い エスポアール・クワノ ひばり デイサービスセンターすまいる ジブンワーク ICHIGO PLUS わくわく祇園's さわやか愛の家西大寺館 など
入所支援施設	住倉学園 瀬戸内学園 ※吉備の里なでしこ ※P.P.P.BB チャレンジャー!
訓練校	国立吉備高原職業リハビリテーションセンター

※吉備の里なでしことP.P.P.BB チャレンジャー!は、生活訓練と入所支援を提供している事業所です。

高等部3年生の現場実習を中心に、本人の適性や意欲、事業所からの通勤距離などを本人と保護者、学校、支援者でよく話をして進路先を決定しています。

卒業後すぐに就労する生徒、就労移行や生活訓練などの訓練系の事業所を選択し、働く力をさらに高めてから数年後に一般就労を目指す生徒、生徒が安心して毎日が過ごせるように事業所と連携し、徐々に移行する生徒などさまざまな進路選択があります。

進路先を探し始める時に本人、保護者にあらかじめお伝えしていることがあります。

それは、本人、保護者の希望を全て応えてくれる事業所はない、ということです。企業や障害福祉サービスを提供している事業所は、人的、設備的な制約の中で本人、保護者の思いや課題に寄り添い、支援を考え、働く場所や生活する場所を提供してくれます。「希望の合う事業所を探す」ことも大切ですが、「一緒に生徒の支援を考えてくれる事業所を探す」という視点も大切です。

「見る - 視覚認知 -」 ことについて

進路選択を考える上で作業する力がどのくらい身についているかが一つの目安になります。手元を見ながら正確に作業することができるのと進路選択の幅が広がります。「見る力」を育てることは小学部段階から積み上げができるので下のチェックリスト等を参考にしてください。視覚認知チェックリストは「発達障害のある子どもの視覚認知トレーニング」(本多和子著.学研出版.2017.7.3 発行) という本から視覚認知のチェックリストを引用しています。

【視覚認知濃厚接触者チェックリスト】

※勉強に関係することは、就学年齢に達した子どもを想定してください。

- ① 見なさいという指示に従えない。
- ② 左右を覚えられない。あるいは間違えやすい。
- ③ よく迷子になる。
- ④ 探し物をうまく見つけられない。
- ⑤ 黒板に書かれたことを、ノートに写せない。
- ⑥ 文字を覚えられない。
- ⑦ 覚えているはずの似たような文字を間違える。
- ⑧ 年齢相応の絵や本の挿絵を理解できない。お絵かきがとまらない。
- ⑨ 手作業が不器用である。
- ⑩ 人のしぐさのまねができない。お遊戯やジェスチャーが苦手である。
- ⑪ ボール遊びやそれに類する体育が苦手である。
- ⑫ 身体のバランスを崩しやすい。物につまずいたり、人にぶつかる。
- ⑬ 文章の行を飛ばし読みしたり、同じところを重複して読んでしまう
- ⑭ 整然と数字を並べられず、筆算が苦手である。
- ⑮ 図形の問題が苦手である。

※視覚認知チェックリストについて

・右のチェック項目は、次の目の働きに関係があります。

○ 「見るべき対象」と「それ以外の背景」が分けて読み取れず焦点を合せにくく、内容を読み取れない。

【①、④、⑤、⑧】

○ 右や左、上、下などの方向感覚が育っていない。方角が分かりにくかったり、目印となる標識自体を読み取れなかったりする。

【②、③】

○ 直線や曲線など文字の輪郭や形、色を読み取ることが難しい。

【⑥、⑦】

○ 自分の体のイメージを分かりにくかったり、手と目の動きを連携させたりすることが苦手。また、物との距離を読み取ることも難しい。

【⑨、⑩、⑪、⑫】

○ 文章の読み取りの際に、文字列に沿って視線を動かすことが難しい。文章の中から読み取る文字を注視することが難しい。

【⑬、⑭、⑮】

視覚認知を高めるトレーニング (例)

視覚認知を高めるトレーニングの中で、ご家庭ですぐに取り組めるものを紹介します。



じゃんけん

「じゃんけん」は、相手と自分の手の形を読み取ったり、手をグーやパーなどの形を作ったりすることで読み取る力や自分の手の操作性を高めることができます。

「負けた方が勝ち」などルールをアレンジしたり、じゃんけんのテンポを変えたりすることで、多くの子どもが楽しみながら視覚認知のトレーニングをすることができます。

神経衰弱

トランプを使った「神経衰弱」もいろいろな形や色を読み取ったり、裏返しにしたカードの図柄を予測したりすることで視覚認知を高めることができます。最初は、子どもの好きな絵柄のカードでやっても楽しみながらできます。



ばらばら数字カード

「ばらばら数字カード」は、神経衰弱と同じトランプを使って数字を順番に集めるトレーニングです。数字を子どもの目の前で散らし、ばらばらの状態にして、順番に数字を集めたり、指さしたりします。机の上からできるようになると散らす範囲を冷蔵庫や壁などに貼り、宝物探し感覚で行うと楽しみながら頭や体も動かし、効果を高めることにもなります。

このほか、食器を運ぶお手伝いも子どもの見る力を高めることにつながります。

生活や学習場面はもちろん、作業場面でも「見る力」は大切です。夏休みの生活の中でできることからチャレンジしてみてください。